



報道機関 各位

記者発表資料
令和3年8月25日（水）
問い合わせ先：広聴課
課長：池羽
担当：松田、米倉
電話：829-1931
内線：2154

令和3年度「さいたま市民意識調査」の中間報告を公表します

さいたま市では、広聴事業の一環として、施策に対する市民の意向等を把握し、今後の市政運営の参考とするため、市民意識調査を平成19年度から毎年実施しています。

このたび、令和3年度「さいたま市民意識調査」の速報値（単純集計結果）をまとめた中間報告を公表します。

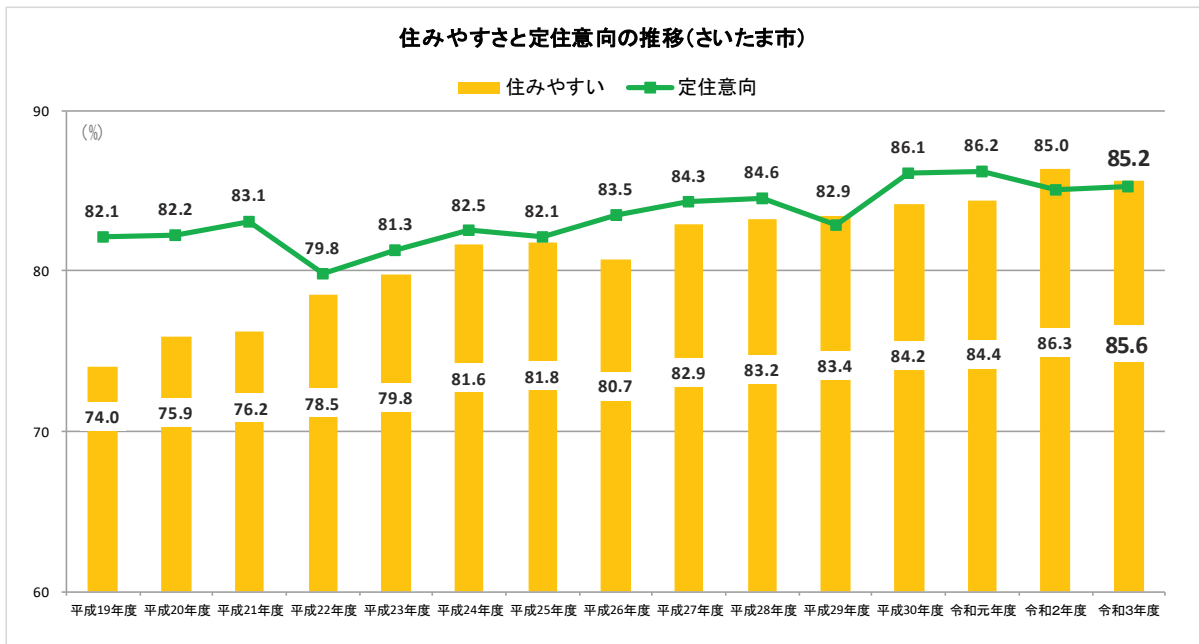
なお、より詳細な結果をまとめた最終報告は、令和3年12月中に公表予定です。

1 調査結果（抜粋）

(1) 住みやすい人は85.6%、住み続けたい人は85.2%、

ともに8割半ばで高い水準を維持

今の地域が住みやすいと思う人（「住みやすい」+「どちらかといえば住みやすい」の合計）は85.6%、住み続けたい人（「ずっと住み続けたい」+「当分の間住み続けたい」の合計）は85.2%と、ともに8割半ばで、高い水準を維持しています。



(2) 今後力を入れて取り組んで欲しい事業は、「高齢者福祉の充実」

事業分野別のニーズでは、「高齢者福祉の充実」が 45.6%で最も高く、「身近な公共交通／生活道路・自転車利用環境の整備」(42.9%)、「交通事故防止／防犯対策の推進」(40.8%)が続いています。

※調査結果については、「中間報告」及び「概要版」をご覧ください。

2 調査のあらまし等

調査のあらまし（在住者調査）		調査項目（在住者調査）
調査地域	さいたま市全域	① 地域での生活
調査対象	さいたま市在住の満18歳以上の男女	② さいたま市のイメージ
調査対象数	5,000人	③ 市政との関わり
抽出法	住民基本台帳に基づく層化多段無作為抽出	④ 市政への満足度・重視度
調査方法	郵送配布・郵送回収法	⑤ 新型コロナウイルス感染症
調査期間	令和3年6月1日～6月18日	⑥ SDGs
回収結果	有効回収数 2,642（回収率 52.8%）	⑦ 今の地域を選んだ理由

※在勤者を対象とする調査も、同時期に実施しています。

3 配置場所

「中間報告」は、各区情報公開コーナーに閲覧用として配置します。また、市ホームページからもダウンロードできます。

(<https://www.city.saitama.jp/006/002/004/p013864.html>)

【在住者調査】

調査地域 さいたま市全域
 調査対象 さいたま市在住の満18歳以上の男女5,000人
 有効回収数 2,642 (回収率52.8%) 昨年2,691 (回収率53.8%)

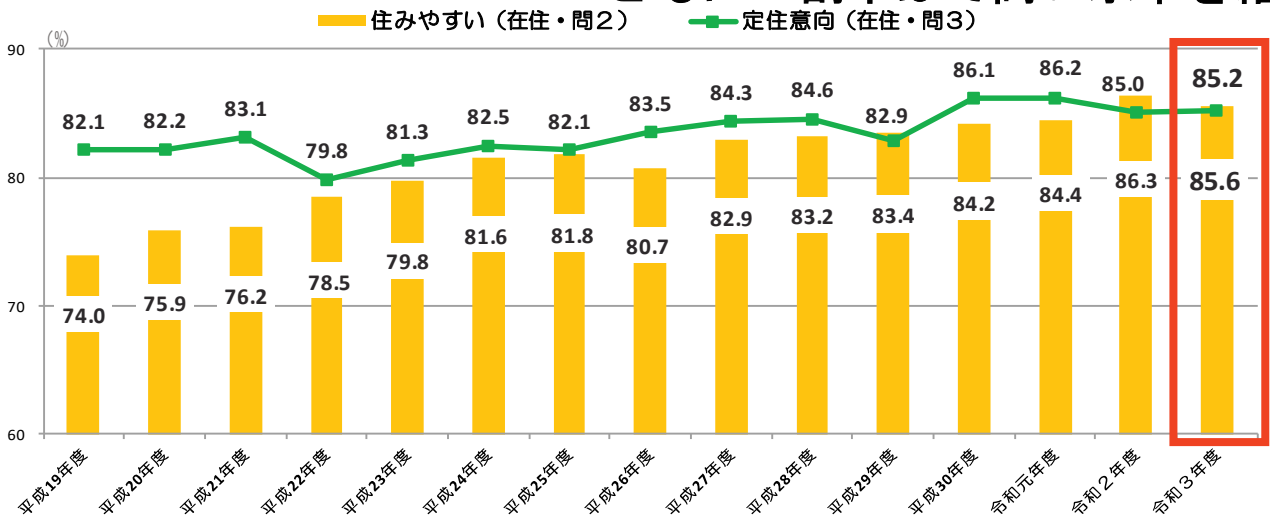
【在勤者調査】

調査地域 さいたま市全域の事業所
 調査対象 さいたま市外からさいたま市内に通勤する満18歳以上の男女2,000人
 有効回収数 598 (回収率29.9%) 昨年634 (回収率31.7%)

調査概要

最終報告書は
 12月中に
 公表予定です。

住みやすさと定住意向の推移
住みやすい人は85.6%、住み続けたい人は85.2%
 ともに8割半ばで高い水準を維持



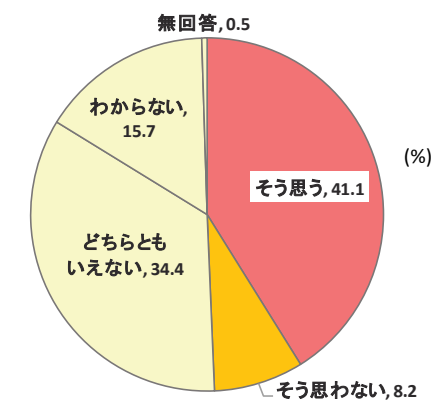
市民の施策重視度 (在住・問15) (%)

高齢者福祉	45.6
公共交通・道路	42.9
事故・防犯	40.8
生活・自然環境	39.6
地域医療	39.0
防災・治水	38.6
ごみ・3R	37.3
子育て支援	35.6
緑化・公園	34.5

コロナ禍での不安事 (在住・問18) (%)

自分や家族が感染すること	88.0
自分や家族が感染したときに速やかに適切な医療を受けられるかわからないこと	78.2
自分が感染したときに職場の同僚や家族にうつしてしまう恐れがあること	71.7
買い物や外出に行きづらいこと	52.0
感染したときの周囲の目	50.9
ワクチンがいつ接種できるかわからないこと	50.3
知人・友人、親類等と過ごす時間が減ること	45.8
家にこもるため運動不足になること	39.9
市内の感染状況がわかりにくいこと	38.5

さいたま市は「住みやすいまち」だと思うか (在勤・問4-2)



さいたま市のイメージ (在勤・問1-1) (%)

買い物など生活に便利なまち	64.5
交通の利便性が高いまち	56.9
関東の主要都市	43.5
コンサートやイベントが多いまち	39.3
居住・生活環境のよいまち	33.9
スポーツの盛んなまち	33.9